

総合患者支援センターニュース

〒700-8558

岡山市鹿田町2丁目5番1号

岡山大学医学部・歯学部附属病院

総合患者支援センター

☎ 086-223-7151 (代表)

☎ 086-235-7744 (直通)

Integrated Support Center for Patients and Self-learning
Okayama University Hospital



総合患者支援センターの更なる発展に向けて

センター長 公文 裕巳



昨年は記録的な猛暑にくわえて観測史上最多となる10個の台風が日本に上陸、その後に新潟県中越大地震が発生したこともあり、年末恒例の世相漢字には「災」が採択されました。改めて自然の脅威を感じているさなか、スマトラ沖大地震およびインド洋大津波が発生し、その未曾有の惨状がいまも拡大しつつあることに心を痛めています。大自然のまえでは人間は如何に小さく無力な存在であるのかを痛感するとともに、人間社会においてお互いが心をかよわせながら助け合って生きていくことの重要性和必然性に思いを巡らせています。

自然災害だけでなく種々の規模の人災もありますが、日常的に直面する「病気」も個人にとっては「災い」といえます。日本の諺に「災い転じて福となす」とありますが、病気になったことで自分の体のこと、心のこと、家族のこと、そして周りの人や社会のことを考えて、人間が優しくなれることも含まれるかも知れません。病気になった時にそんな余裕はないというのが現実かも知れませんが、病院は暖かな支援の心と確かな知識や技術に裏打ちされた支援の手のぬくもりにあふれた場所でありたいものです。

総合患者支援センターは今年3月で開設後丸2年となります。その事業として、患者と家族の支援(各種相談)、患者自己学習の支援(図書室運営を含む)、各種専門チームによる包括的・継続的な患者ケア、医療ボランティア活動の活性化(オストメイトサロンなど)、地域連携システムの高度化と遠隔医療支援、ならびに各種セミナー、ミニコンサートなどの開催支援を中心に活動してきました。今年、岡田宏基副センター長の専門領域でもある「こころのケア」を組みこんで、これらセンター活動の充実を図っていきたいと考えています。皆様からのご意見、ご要望とともにご支援をお願い申し上げます。

NST栄養サポートチーム

臨床栄養部 坂本 八千代

岡山大学病院NST、栄養サポートチームと申しますが、初めて見た、聞いたとおっしゃる方もありますので、起源とその役割をご紹介します。

NSTの起源は1970年アメリカシカゴで誕生し、代謝・栄養学の専門家といわれる医師、薬剤師、栄養士らが集結し患者サイドに立った専門的な栄養管理チームの必要性を唱えたのが始まりです。1980年全米に広まり、他の欧米諸国に普及しました。

日本では1998年鈴鹿中央総合病院で現藤田保健衛生大学東口高志教授が始められています。

当院では平成14年病3月院長の号令のもと、2外科の内藤稔医師を中心に勉強会を開始し、翌平成15年から回診をはじめました。

栄養管理をすることでどのような効果が期待できるのでしょうか？同じ病気で同じように治療してもすべての方が同じような期間で治るとは限りません。薬も同じように使ったとしても効果が同じように表れません。なぜでしょうか？栄養状態が違くと薬の効き目が違ってきますし、治るのに時間がかかるからです。土台となる栄養状態をより良い状態にすることがとても重要なことです。そのために主治医から相談を受け、患者様のために栄養状態を改善するためにどうしたらよいかをミーティングを開き回診をし、提言をしています。このようにNSTは医師、歯科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、検査技師、技工士らが集まってそれぞれの専門性を発揮することで、より良い栄養サポートをするチーム医療を実践しています。



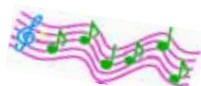
特に岡山大学病院NSTでは口腔ケア、摂食嚥下に歯科医師、歯科衛生士、技工士が関わっておりますし、褥瘡チーム、オストメイトチーム（オストメイト：人工肛門、人工膀胱保有者）とも連携をしながら患者様の栄養サポートを行っています。食べ物を消化管の入口の歯で噛むこと、飲み込むことから出口の下痢、便秘にいたるまで経口、非経口の栄養すべてにわたって考え、提案をし、サポートします。特に腸を動かすことがポイントです。病棟どこへでも出かけて、皆様のお役に立てることを願って活動していきます。宜しくお願いいたします。



栄養はすべての基本

- ・ 栄養状態が不良であれば、いかなる治療も無効
- ・ 適切な代謝・栄養管理は予後を改善する（命を救うことができる）
- ・ 不適切な栄養管理は予後を増悪する

日本の歌とピアノの名曲の楽しみ



10月29日、ピアノ調律師協会の出口裕子さん(ソプラノ)、高須理佳さん(ピアノ)によるコンサートが、南病棟1階エレベーターフロアで開催されました。

繊細なピアノの響きにのせて歌われたのは、「野ばら」「紅葉」「冬のソナタ」などの計11曲。懐かしいメロディーに誘われて多くの方々が集まり、やさしい歌とピアノのハーモニーを堪能しました。



患者図書室

オープン1周年記念

10月22日(於 センター多目的学習室)

「入院中の患者様の気持ちがい少しでもやわらかう、お手伝いしたい！」

ボランティアのそんな思いが1つになり、病院内に患者図書室を開設して早1年。運営しているボランティアと職員とで、オープン1周年を祝いました。

利用される患者様からの要望もあって、昨年12月からは平日毎日午後1時~3時まで開室しています。どうぞご利用ください。



ボランティア交流会 感謝状授与式

12月9日(於 病院内会議室)

病院ボランティア活動を100日以上達成された磯山幹雄さん、井脇養二さんが谷本副病院長から感謝状を授与され、ボランティア・職員とで祝いました。



こころのケア

連載シリーズ その1

副センター長 岡田 宏基



<うつはからだの病気?>

うつは「こころの病気」と思っておられる方がきっと多いでしょうね。確かに、「気が沈む」、「気が重い」、「気が晴れない」、「やる気が出ない」など、「気」を使って表現されることが多いのも事実です。しかし最近では、うつは「脳が風邪をひいた状態」と言われたりします。これは、うつには身体的な要素が大きいということを示していると共に、誰にでも起こりうる状態である、ということも同時に表現しています。

では、うつは一体どうして起こるのでしょうか。うつは精神的・身体的エネルギーが低下した状態と考えられます。自動車であればバッテリーがあがってしまった状態と考えるといいでしょう。バッテリーがあがると車は動きませんね。身体も同じように、思うように体が動かない、少し動くと疲れる、という状態になります。消化管の働きも低下するので、食欲が減退したり、便秘をしたりするようになります。肩がこったり、めまいがしたり、という症状が出る方もあります。

うつは、軽いうちは精神症状より、むしろこれら身体症状が自覚されやすいのですが、この時期でもよく聞いてみると、睡眠が浅い、テレビや新聞を見る気が起こらない、というような精神症状が見られることが少なくありません。この時期にうつと気づかず、無理して仕事などを続けていると、より重いうつに進行し、皆様がイメージするような、表情が暗く、気分が沈んで、家から出られず引きこもり、という状態に至ります。

うつの治療はバッテリーに例えると、放電を減らして充電をすることです。放電を減らすことは、体でいえば心身の休息を取ることであり、充電は適切な薬剤の使用ということになります。ぜひうつを正しく理解して、早期に治療を始めていただきたいと思います。



支援の窓から

【Vol. 3】

母乳育児相談を開設して

保健学科 大井伸子

1989年、WHOとUNICEFの共同声明で「母乳育児を成功させるための十か条」が発表されて以来、母乳育児の重要性が再認識されるようになり、現在多くの病産院で母乳育児支援に関するさまざまな取り組みがなされています。母乳育児を行う上で退院後の援助は特に重要であり、その需要は多いと考え、2004年4月より『母乳育児相談』を始めました。

早いもので、『母乳育児相談』を開設して9か月が過ぎました。利用を希望される方には、あらかじめ電話での予約をしていただいております。妊娠中の方からも、産後の母乳育児のことで相談を受けることがあります。また、当院以外で出産されたお母さま方にもご利用していただいております。母乳育児相談やケアを行っている時、お母さま方は母乳に関すること以外に、育児や他のさまざまなことについてのお話や相談をしていかれることがあります。お母さま方とお話をしていると感じることは、お母さま方は育児についていろいろな考え方や、またこだわりをもっていらっしゃるということです。そういったお母さま方の思いを大切にしながら、今後も『母乳育児相談』に関わっていきたいと思っています。お気軽にご相談(ご相談は無料で、予約制となっております)下さいませよう、お電話をお待ちしております。

ご相談時間...毎週金曜日 午後2時～4時
お問い合わせ・ご予約窓口... 086-235-6848

テレビ電話機能付携帯電話を使った 遠隔医療支援

テレビ電話機能付携帯電話をお持ちの方が最近増えてきました。携帯電話での映像は、画面は小さいのですが、カメラの性能が良くなってきたので、手ぶれに気をつければ、相手の姿や動きが思いの外よく見えます。



私たちは、これを医療に応用したいと考えています。具体的には、退院後自宅で人工呼吸器などの医療機器を使う場合や、ストマ装具の操作を退院後初めて行うときに、映像を通じて相談していただく、困っている点が鮮明にわかり、効果的にアドバイスすることができます。現在、どのような場面で利用可能か検証を進め



ているところですが、ぜひとも利用してみたいという方がありましたら、センター相談室までお知らせ下さい。

編集後記

新たな年がスタートしました。センターの活動も、病院内や地域の皆様と協力し合い、更に充実させ成長していきたいと思っております。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

紹介予約を始めます

本院では、地域医療機関との連携を強化し患者サービスを充実するために、連携機能の効率化を進めています。

今回、他の医療機関からの紹介初診(再診)患者様の診療待ち時間の短縮を目的に、紹介患者様の診療予約受付を行う予定です。

また、患者様が地域で継続性のある適切な医療を受けられるように、あるいは病院の役割分担を明確にするため、紹介元医療機関や、他の医療機関への紹介を行っていきます。

今後とも患者サービスの向上に努めますので、よろしくご協力をお願いします。

センターからのお知らせ

総合患者支援センター開設2周年記念講演会を
下記の日程で行います。詳細はお問い合わせください。

日時: 3月10日(木) 17時30分～
場所: 歯学部第1講義室

【特別講演】

「香川県におけるネットワーク医療の現状と将来について」
香川大学医学部附属病院医療情報部 教授 原 量宏先生

【センター活動報告】

「オストメイト支援チームのあゆみ」
看護師 奥野 信枝

「総合患者支援センターにおける保健学科の役割」
保健学科 大井 伸子